

別紙２ クラウドサービス要件

業務		項番	説明
可用性	職員機能の運用時間	1	全ての開館日、7:30～20:00に使用できること。
	サービス提供時間	2	計画停止を除く365日24時間サービスを提供できること。
	計画停止予定通知	3	最短でも14日前までには必ず通知をすること。
	重大障害時の代替手段	4	重大障害時にもP C単独で貸出業務を継続できること。
	計画停止（メンテナンス）	5	計画停止は、月1回（最大6時間まで）までとする。
	レベルアップ方針	6	定期的にレベルアップを実施することとし、最短でも30日前までに内容を連絡すること。
	パッチ適用	7	事前に図書館と協議し、適用タイミングを調整すること。
	重大障害からの復旧時間	8	アプリケーションレベル(サービス再起動による障害復旧)：5時間以内、それ以外(OS/ハード障害)は48時間以内であること。
	復旧範囲	9	前日閉館状態のバックアップまで復旧できること。
	障害通知プロセス	10	緊急時は、図書館担当者へ電話連絡すること。
性能	オンライン応答時間	11	応答時間は、平均1秒以内（貸出）であること。
	大量バッチ処理時間	12	一括登録は3000件/時間以上行えること。
	年次バッチ処理時間	13	即時処理でない場合、年次処理はセンター内で計画実行すること。
拡張性	パラメータ設定	14	各機能は、パラメータ設定で業務運用に対する柔軟性と拡張性を持つこと。
	カスタマイズ性	15	MARC変換プログラム、WebOPAC定義体、館内OPACデザイン、各種の文言表現、画像など図書館固有の 要件に関しては個別調整の余地を備えること。
	オプション製品追加	16	標準的なオプションシステムの追加においては、基幹システムに対する構築作業費用を要さずに導入できること。
	外部サービス連携	17	埼玉県立病院機構が運営する各病院図書館の横断検索と連携を図れること。
	同時接続利用者数（業務）	18	契約端末ライセンス数まで同時接続可能なこと
	拡張要望への対応	19	図書館からの要望に対し、パッケージ対応が可能なものについては優先度に基づき機能追加等を実施できること
	対応時間帯	20	受付後は開館日の8:30～19:00に速やかに対応をすること。
運用管理	運用者	21	クラウドサービスを自身で運用・保守を 実施していること。
	稼動監視	22	アプリケーション変更、ポート監視、ハードトラブル監視を行うこと。
	検知時対応	23	異常値やトラブル、ハードウェア故障の予兆を確認した場合は、速やかに必要な措置を取れること。
	緊急時対応	24	重大障害への対処や緊急性の高いセキュリティ対応が必要な際に、パッケージシステム運用担当者が即時対応で駆けつけること。
データ管理	バックアップ方法	25	日次で自動取得し、センター内にディスク形式で保存すること。アクセス権は運用管理者のみに制限すること。
	バックアップ保存期間	26	3世代以上保存すること。
	統計データ保持期間	27	6年以上保持すること。
	画像データ領域	28	画像データ、配架図ファイルは2GBまで保持すること。
	解約後のデータ消去	29	サービス解約1ヶ月の保持期間の後、完全消去すること。
情報保護	脆弱性チェック	30	悪意のある操作や不正な動作を検出し、外部からの攻撃を防止する対策を講じること。
	セキュリティパッチ	31	OS・ミドルウェアのセキュリティパッチを適用し、安全性を保つこと。
	セキュリティに関する評価	32	年1回以上セキュリティ全般に関する監査を実施すること。
	情報取得者の制限	33	利用者データにアクセスできる技術者は、セキュリティ管理者の許可を得た者に制限し、担当者は個人情報 保護に関する教育を定期的に受講すること。
	通信の暗号化レベル	34	TLS1.2以上もしくはVPNによって接続すること。
	セキュリティ	35	業務系の画面はIPアドレスによるアクセス制限が可能であること（４病院個別の固定IPよりアクセスすることができること）
	個人情報アクセスログ取得	36	利用者情報に対する操作ログを、管理者職員が確認できること。